

6月21日のレッスン

ヨナタンとダビデ——忠実な友

鍵となる聖句：「ヨナタンはダビデに言った。『安心して行きなさい。私たち二人は主の御名によって誓い合ったのです。「主が、私とあなたとの間、また私の子孫とあなたの子孫との間に、永遠にいてくださいますように」と。ダビデは立ち上がって去り、ヨナタンは町へ戻った。』

サムエル記上 20:42

関連聖句：

サムエル記上 18:1-9; 19:1-7; 20:1-42

数世紀にわたり士師たちの統治を受けてきたイスラエルは、周囲の他の国々と同じようになるために、王を望んだ。神はモーセに、この日が来ることを告げ、そのような王に求められる条件を定めておられた。（申命記17:14-20）。サムエルは、サウルによる王国の樹立において重要な人物であった。後に、神への不従順を理由にサウルから王位が奪われ、神の心にかなう者が後を継ぐことになると告げたのもサムエルであった。（サムエル記上13:13,14）。また、神が「立ち上がって、彼に油を注げ。この人こそがそれである」と命じられた時、ダビデに油を注いだのもサムエルであった。

（サムエル記上16:12,13）

この油注ぎの結果、主の霊がダビデに力強く臨んだ一方で、サウルからは離れていった。王の憂鬱な様子に気づいた家来たちは、ダビデを呼び寄せ、豎琴を弾かせた（ ）。こうして、病める指導者に音楽による安らぎをもたらした。サウルはダビデの働きを重んじるようになり、彼を自分の盾持ちとした。（サムエル記上 16:14-23）

これらの出来事の重要な結果の一つは、ダビデが父であるサウルとイスラエルの民に対して行っていた偉大な奉仕に対する、サウルの息子ヨナタンの反応であった。「ヨナタンはダビデの魂と深く結びつき、彼を自分の魂のように愛した。……そこで、ヨナタンはダビデを自分の魂のように愛していたので、二人は契約を結んだ。」（サムエル記上18:1,3）。こうして、私たちのキー・ヴァースの言葉にも示されているように、神への奉仕に対する相互の愛に基づいた友情が築かれたことがわかります。

この友情はまもなく試練にさらされることになる。ダビデがペリシテ軍を打ち破った後、民はこう叫んだ。「サウルは千人を殺し、ダビデは万人を殺した。」（サムエル記上 18:7）サウルは激怒し、ダビデに対して陰謀を企てようと考えた。しかし、ダビデがイスラエルの敵に対して次々と戦いに勝利するにつれ、サウルは彼を排除するためのより直接的な手段に踏み切った。彼は息子のヨナタンと家来たちに、ダビデを殺すよう命じた。サムエル記上 19:1

ヨナタンは父を愛しており、四人の息子の長男として、イスラエルの次期王となる立場にあった。

しかし、彼の最大の忠誠はイスラエルの神に向けられていた。サムエル記上**19章4節**に記されているように、ヨナタンはサウルに、国に計り知れない功績を立て、一貫して揺るぎない忠誠を尽くしてきた男の命を奪おうとするのは大罪であると告げた。ヨナタンの言葉は、衝動的な父の心に良い影響を与えた。サウルは誓いを立てて、敵意ある企てを断念した。（サムエル記上**19章6、7節**）。こうして、ヨナタンの取り成しによって、一時的な和解がもたらされ（ ）、ダビデは王とイスラエルの民に仕えるために戻った。

以上の出来事から、兄弟たちへの愛の土台を築くことについて、かけがえのない教訓を見出すことができる。「人がその友のために自分の命を捨てることほど、大きな愛はない。」ヨハネ**15:13**